

人文論叢

三重大学人文学部文化学科研究紀要

第 7 号

目 次

展望

Kripke 真理論とその数学的構造……………山岡 悦郎(1~ 19)

論説

ヴェルディとシェークスピア
——『オテッロ』を中心に(1)——……………福尾 芳昭(21~ 35)

相対主義と批評のペシミズム
——口実としての「作者」を越えて——……………赤岩 隆(37~ 47)

ブレヒトの『まる頭ととんがり頭』について……………友永輝比古(49~ 55)

ゴットフリート・ベンにおけるユージェントシュティルと
表現主義 (独文)……………宇京 早苗(57~ 85)

散文の国 (日本)
——ロラン・バルト『記号の帝国』をめぐる一考察——……………渡辺 芳敬(87~100)

蔡元培の辞職をめぐる……………道坂 昭廣(101~114)

第三帝国の 農村政策 (一)
——第一回全国農民大会を中心に——……………豊永 泰子(115~135)

近畿・東海地方における19世紀前半の冬の寒さについて……………水越 允治(137~143)

トラバースによるホーマンズ『社会行動』論の公理化の検討……………久慈 利武(145~176)

荀子と帛書「五行篇」の天人論について
——先秦における「天」と「道」との相克——……………片倉 望(一 ~ 四)

研究ノート

レッシングの文学・芸術論 (その一)……………太田 伸広(177~186)

地域運営委員会の構造特性
——灘神戸生協の組織社会学的研究 (その3) ——……………碓井 崧(187~198)